

有限会社 中島デーリィサポート

■ 家族経営を基本とした新たな地域生産システムの構築



〈法人の概要〉

所在地:〒089-2122 大樹町字中島 106 番地

代表者:代表取締役社長 戸枝勝巳

構成員:8名(構成農家7戸)

役員:8名 常時雇用者:1名

設立:平成21年6月 資本金:350万円

事業内容:酪農/農作業受託

牧草 222ha、デントコーン 88ha、乳用経産牛 550頭、

乳用育成牛 400頭、年間生乳生産量 4,700t

(H22年)

経営面積:310ha(H22年)

農作業受託面積:牧草・デントコーン収穫 150ha

売上高:2億4,918万円(H22年)

電話:01558-9-9877 FAX:01558-9-9877

〈法人のあゆみ〉

| | |
|-------|--|
| 平成11年 | 中島地区酪農部会(13戸)によるTMRセンターの先進地視察 |
| 12年 | 学習会の開催、10月にTMRセンターの事業申請(中止) |
| 13年 | TMRセンターの検討会、視察研修 |
| 14年 | 再検討開始(9戸) TMRセンターの設立合意(6戸)、家族説明会、設立検討会の開催 |
| 15年 | 有限会社中島デーリィサポートを設立、TMR供給開始 |
| 21年 | 構成員の農地の権利を取得し農業生産法人としてスタート |

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・大樹町中島地区の酪農家は比較的大きな経営規模でありながら、労働力不足や施設・機械の未整備などが共通課題となっていた。特にサイレージの貯蔵は、バンカーサイロ整備が遅れていたため、大型自走ハーベスターによる収穫体系に移行した後も、調製作業に時間を要し、安定した良質粗飼料の確保が難しく、飼料給与作業にも過大な時間と労力を費やしている現状にあった。
- ・こうした課題を克服するため、土地基盤に見合った生産レベルの実現と、家族経営を基本とした分業化・共同化による新たな生産システム構築のためにTMRセンターの設立を目指した。当初は中島地区の酪農家13戸で先進的な施設の視察研修など行い設立に向けた検討を重ねていった。
- ・最終的には、ハーベスターを共同で所有し収穫作業を行っていた6戸で、収穫作業の効率化、良質粗飼料の供給をめざして平成15年1月にTMRセンターとして、有限会社中島デーリィサポートを設立した。設立に至るまでに3年の時間を要した。
- ・飼料畑の肥培管理・収穫、TMRの調製・配送までを一括して行い、粗飼料の質的向上と増産、TMR体系への移行により、乳量の増加と乳成分の安定を図るなど、構成員の経営改善を目指した。また、個々の労働軽減と、機械・施設の設備投資の削減、肥料・飼料の一括仕入れによる経営コスト軽減にも取り組んだ。
- ・平成21年には、構成員から賃貸借による農地の権利を取得し、農業生産法人に移行させ、地域において収穫作業などの農作業を受託している。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・後継者がなくリタイヤする構成員の農地をどの様に扱っていくか、今後の課題となっている。現在は法人が借り上げている。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・コスト意識の醸成、適材配置による意欲高揚、組織による後継者育成が可能。
- ・飼料給与作業の省力化や収穫作業の効率化が実現された。
- ・TMR 給与による乳量向上、自給飼料の品質向上と低コスト化が実現された。
- ・効率的な機械・施設への投資、肥料・飼料の一括仕入れによるコスト軽減となった。
- ・人の交流と情報量の拡大と地域連携ができる。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・経営上の問題が生じた場合は、何度も構成員で会議を開き十分議論を重ねて結論を出して解決していく。時には、構成員の奥さんにも参加してもらう。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・社長は、自ら先頭に立って行動すべき。また、責任転嫁はしないこと。
- ・リーダーシップを発揮し、構成員の意見をよく聞き、全員でじっくりと議論し考えを固めていくこと。
- ・設立から2～3年は、金が出て行くだけで経営的には厳しいが、そこであきらめてはいけない。
- ・施設・機械を補助事業で導入する場合、耐用年数や更新時期を良く考えておくこと。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・飼料メニューは5パターンに設定(搾乳用42kg/日、40kg/日、38kg/日、35kg/日、若牛用)している。
- ・最盛期のハーベスターオペレーターと搬送ダンプは建設会社に委託(農協と建設会社の連携組織があり農協が斡旋)している。

〈法人の目指す考え〉

家族経営は農業経営の基本単位であり、地域経済の大きな担い手です。この新たな生産システムは「生産コスト削減と経営の安定化」を進める先駆的な試みとして、是非成功させなければなりません。また、家族経営の新たな発展方向となるべく、地域酪農の持続的発展に寄与することを目指しています。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・農地の交換分合を実施して、ほ場の大型区画整理を実現させ農作業の効率化を図る。
- ・育成牛の預託を実施し、更なる分業化の推進を行い、省力化や効率化を図る。
- ・新規就農窓口の開設を行い、就農者の育成・確保を図る。
- ・地域の仲間と連携して、農作業受委託の拡大、および問題意識の共有と技術の高度化を図るとともに、新技術導入のチャレンジと実証の場としたい。

〈視察の受入〉

詳細については要相談。 ※当法人には、毎年、海外も含めて150件程度の視察があります。
連絡先: 01558-9-9877 (担当:代表取締役社長 戸枝勝巳)